



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—195 2026 年 7 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:info@k-peace-forum.org
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

沖縄平和行進に参加して

吉村清隆副代表

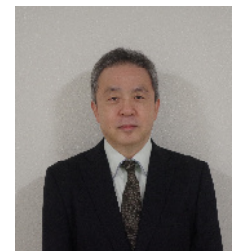
日本の国土面積のわずか 0.6%にすぎない沖縄県に、米軍基地の約 7 割が集中しています。この圧倒的な不均衡は、本土の安全保障という名目のもとで、沖縄に基地負担を一方的に「押し付け」てきた歴史であり、構造的な「差別」の構図そのものです。

戦後、米軍統治下で基本的人権すら制限された時代から、1972 年の本土復帰、そして現在に至るまで、沖縄の人々は過重な基地負担に苦しめられてきました。日米同盟を安定させる仕組みとして、米軍機による騒音、墜落事故の恐怖、環境汚染、そして米軍関係者による事件・事故の脅威といった直接的なリスクなど、対米従属的な日米関係の矛盾を沖縄に集中させる構造的な「差別」が深まっています。この歪んだ現状を放置することは、地方自治や人権尊重という民主主義の根本を揺るがす重大な問題だと思います。

こうした構造的な差別に抗い、現状を打破するために毎年 5 月の本土復帰記念日に合わせて展開されているのが「沖縄平和行進」です。今年も全国から集まった参加者が、普天間基地や嘉手納基地などの広大な米軍基地の周辺を自らの足で歩き、基地の撤去や日米地位協定の抜本的改定を強く訴えました。

私も今年も参加しました。今年は普天間基地コースを行進しました。フェンスに囲まれ

た広大な軍事施設を肌で感じ、「静かな日常を返せ」「静かな夜を返せ」とシュプレヒコールをしながら、沖縄の現実を、沖縄県民のご苦勞を、「自分ごと」として捉え直す機会になりました。



いま、改めて「平和行動の重要性」が問われています。沖縄の基地問題は、沖縄だけの地域問題ではなく、日本全体が向き合うべき構造的な問題です。しかし、本土に暮らす多くの人々にとって、沖縄の負担は日々の生活から遠く離れ、見えにくくなっているのが現状です。私も隣の県民でありながらも、日常生活に追われる中ではなかなか思いを巡らせることが薄くなってしまっていることを反省しながらの行進でした。そういうことから平和行進のように実際に現地に立ち、声を上げ、連帯を示す行動に参加することが必要だと思います。

沖縄の現状と全国に多くの仲間がいることを肌で感じ、地元に戻っても一人ひとりが関心を持ち続け、何かしらのアクションを起こす。そういったことを積み重ねることが、長年続く不条理な「押し付け」を終わらせ、真に基本的人権と平和が保障される社会を築く確かな一歩と信じています。

被爆81周年 「非核・平和行進」 スタート

原水爆禁止鹿児島県民会議と県被爆者協議会は、2026 年 6 月 3 日（水）に県内の各自治体や議会へ、「非核平和へのとりくみ」の要請行動をスタートしました。

初日の鹿児島地区では、各労組や高退協のデモ行進と、参加者で鹿児島市役所前みなと大通り公園でセレモニー集会を行いました。県内各ブロックでは、今後活動を行って行く予定です。



デモのスタートは 11 時 30 分。アイムビルの前に集合した各労組参加者と高退協参加者が合流し、徒歩で市役所前みなと大通り公園までデモ行進。個人参加もあり、総勢 50 人ほどの予想を上回る参加者で、核廃絶の思いの強さがうかがえました。当日は台風 6 号が通り過ぎ、台風一過のとても暑い中でしたが、参加者は、気温の暑さよりももっと熱い思いで核廃絶を訴えました。12 時に始まったセレモニー集会の最後に、鹿児島ブロック護憲平和フォーラムの濱崎寛隆副代表が、鹿児島市議会「立憲・社民」会派の平山タカヒサ会派幹事長に要請文を手渡して、核兵器廃絶実現のためともに歩むことを誓いました。

3 日は、集会・パレードと並行して自治体への要請行動も行いました。非核行進・セレモニー集会前に、県庁で県知事、県議会へ要請書を非核の願いを込めて届け、セレモニー集会後に、鹿児島市役所、十島村役場、三島村役場まで回り、要請行動を行いました。県内各ブロックでは、今後活動を行って行く予定です。

今、この瞬間もミサイルが飛び交う地球に私たちは生きています。いつ、核のボタンを押すかもしれない国のトップたちもいます。私たち日本人はこの世界で唯一原子爆弾を落とされた国民であり、酷さ・恐ろしさ・苦しさ・悲しさをどの国民よりも知っています。私たち一人一人が声をあげ、この世界から核兵器を禁止させていかねばなりません。世界にその姿勢を示す時です。急がねばなりません。

私たちは、非核・平和の歩みを止めることなく進み続けます。共に進み続けましょう。



平和な世界をつくるのは私たち！九州ブロック平和集会

長崎県佐世保市には主に二つの大きな軍事拠点があります。米海軍佐世保基地と海上自衛隊佐世保基地です。どちらも佐世保港を中心に、周辺の弾薬集積所や飛行場など複数の施設で構成されています。

米海軍佐世保基地は、在日米軍の一つで、アジア太平洋地域の艦隊支援拠点です。今回のアメリカによるイラン武力侵攻中に、強襲艦トリポリが出港した基地でもあります。



海上自衛隊佐世保基地は、海上自衛隊の「五大基地」の一つで、西日本から南西諸島方面をカバーする拠点です。近年は、島しょ防衛を重視した新たな「水上艦隊」編成の中で、水陸両用戦・機雷戦部隊の司令部が置かれるなど、南西諸島防衛の中核拠点として位置づけられています。同じ佐世保市内には、陸上自衛隊の水陸機動団も所在しており、海自と陸自が連携する体制が特徴です。

佐世保は、旧海軍佐世保鎮守府を前身とし、明治期から軍港として整備されてきた歴史があるところです。そんな長崎県佐世保で、2026 年 6 月 13 日（土）九州ブロック平和集会が開催されました。会場は、アルカス SAEBO。九州・沖縄各県から 500 人集まりました。鹿児島県から 31 人参加しました。集会のテーマは、「平和世界をつくるのは私たち！」満員の会場は平和を求める熱気に満ちあふれていました。開会・連帯のあいさつは、長崎県平和運動センター議長の米村豊さん、平和フォーラム共同代表の染裕之さん、佐世保地区労議長の赤星秀典さんの 3 名。3 名ともに話されたことが、九州・沖縄の軍事基地化の危機感を共有し、戦争の準備でなく、平和の準備をするために連帯しようということでした。半田滋さんの動画・講話で、日本の安全保障の現状について学習をしました。安倍政権から高市政権に続く安全保障政策は、日本を破滅に向かわせることがよく分かりました。「抑止力を高めれば安全になるのは盲信で、軍事力強化は戦争を呼び込む。平和は軍事力でなく、命がけの外交によってはじめて実現する。」と、まとめられました。県護憲の磨島さんが、鹿児島県の現状についてわかりやすく説明をされ、集会は終了しました。

集会後、集会参加者 500 人によるアピール行進を佐世保四か町から松浦公園まで実施しました。アーケード商店街の中を約 2 キロ、制服を着た自衛隊員やアメリカの軍人であろうと思われる人の中のアピール行進でしたが、市民らはアピール行進を好意的に見守ってくれていました。

平和な世界をつくるのは私たちです。九州・沖縄の仲間たちと団結して諦めることなく、前へ進み続けます。



鹿児島ブロックの取り組み

核廃絶・平和行政に関する要請…いちき串木野市と日置市

2026 年 6 月 17 日（水）、原水禁鹿児島ブロックでは、核廃絶・平和行政に関する自治体要請のため、いちき串木野市と日置市を回りました。

当日は、あいにくの雨でしたが、街宣車で街宣をしながら、まず、いちき串木野市へ向かいました。いちき串木野市役所では、中屋謙治市長と松崎幹夫議長が対応し、要請書を受け取り、「核廃絶・戦争禁止に前向きに取り組む。」と応えてくれました

次に、市来庁舎のある旧市来町、東市来支所のある旧東市来町を街宣しながら日置市役所に向かいました。日置市役所では、議会中のため、冨迫克彦議長との面会はありませんでしたが、永山由高市長には、直接要請書を渡し、核廃絶・平和の尊さについて話し合うことができました。



ご参加ください！ 日本が危ない！ 鹿児島が危ない！

「戦争いやだ～」鹿児島県内での

7.18「日米軍事訓練を許さない」

ピースアクション鹿児島

○「戦争ができる国」にするのはダメ～！

○「人を殺す」武器輸出はダメ～！

○自衛隊員を戦場に送るのはダメ～！

○若者を戦争に駆り出す「徴兵制」は絶対ダメ～！

○戦争に行くな、自民党の議員からどうぞ！ ○国会議員が憲法を変えてはいけません！

日 時：2026 年 7 月 18 日（土）

午前 10:00～12:00

場 所：市役所前「みなと大通公園」

パレード：みなと大通公園⇒いづろ通⇒

天文館⇒センテラス横（流れ解散）



主催：鹿児島に米軍はいらない県民の会